

めぐみイエス・キリスト教会

2018年1月28日(日)2018年第四聖日礼拝
週報「通算第391号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈祷会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年1月28日(第四聖日礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 ますみ さん 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏・祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌233「驚くばかりの」 p. 354

【交読文】 No.42 詩篇第130篇 p. 912

【賛美Ⅱ】 新聖歌209「慈しみ深き」 p. 316

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週のメッセージの概要】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書13章18節～20節(新約p. 189)

【祈 禱】

【メッセージ】 《遣わされた者と遣わした者》 鈴木竜実師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和の祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱・後奏】

●ポイント1 「私は、私が選んだ者を知っています」とは？

※ルカの福音書6章12節～16節「十二使徒の任命」(新約p.109上段)

6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。

6:13 夜明けになって、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をつけられた。

6:14 すなわち、ペテロという名をいただいたシモンとその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとバルトロマイ、

6:15 マタイとトマス、アルパヨの子ヤコブと熱心党员と呼ばれるシモン、

6:16 ヤコブの子ユダとイエスを裏切ったイスカリオテ・ユダである。

※ヨハネの福音書15章16節「主イエス様のお言葉から」(新約p.194上段)

15:16 「あなたがたが私を選んだのではありません。私があなたがたを選びあなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残る為であり、また、あなたがたが私の名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになる為です。」

●ポイント2 「私のパンを食べている者が、私にかかとをあげた」とは？

※詩篇41篇9節「指揮者の為に。ダビデの賛歌から」(旧約p.868上段)

41:9 私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、私にそむいて、かかとを上げた。

※マタイの福音書26章46節～50節「ゲッセマネの園で」(新約p.52上段)

●ポイント3 「遣わされた者と、遣わした者」とは？

※ヨハネの福音書17章3節～8節「主イエス様のお祈り」(新約p.197上段)

※マタイの福音書28章18節～20節「イエス様の大宣教命令」(新約p.57)

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「私には天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としましょう。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、

28:20 また、私があなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。私は、世の終わりまで、いつも、あなたがたと共にいます。」

◎先週のメッセージの概要【互いに足を洗い合いなさい】

《今日からまたヨハネの福音書の学びに戻ります。イエス様は、最後の晩餐、しかも過越の食事を中断されて、わざわざ弟子たちの足を洗われたのです。もし単に足を洗うのならば、食前に、家に入られた時に、なされたはずです。

マルコの福音書執筆者ヨハネ・マルコは、裕福な家庭で育ちました。しかも120人以上の者が入ることの出来た大きな家に住んでいたのです。当然、多くの僕たち、奴隷たちを擁していました。主人であるヨハネ・マルコの父が、イエス様の為に食事の席を用意したのですから、イエス様が家に入られた時に、当然、僕たちがイエス様と弟子たちの足を洗っていることになります。

よってイエス様がなされたことは、弟子たちには分からなかったのです。つまり二度も足を洗うことになるのですから。

ここでイエス様が教えられていることは、単に足を洗い合うことではありません。これは罪の赦しに関する教えなのです。ペテロはイエス様に、「主よ。あなたが、私の足を洗って下さるのですか。」と聞くと、「私がしていることは、今はあなたにはわからないが、後でわかるようになります。」と、イエス様は答えられました。これはまさしく、十字架による罪の赦しを言われているのです。

事実、このことはコルネリオへのペテロのメッセージにおいて成就したことが分かります。この時ペテロは、十字架の贖いを理解していたのですから。

しかし、この時には、まだペテロを始め、十二使徒たちは、イエス様のなされたこの洗足の意味が分からなかったのです。

次にイエス様は、「あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです」と勧めました。これは『イエス様の十字架によって罪赦された者は、互いに罪を赦し合いなさい。』、と言うことを教えておられるのです。私たちが一番難しいことは、「赦す」ことです。「赦せない」のが私たちであり、また人間の本性なのです。しかし、イエス様が、私たちの罪の身代わりとして死んで下さいました。イエス様を信じる者には、罪が赦され、永遠の命が与えられるのです。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、2月4日(日)午前10時から、通常通りに行ないます。
2. 鈴木師は、2月5日(月)ITCN午前集会に、そして2月6日(火)下妻朝祷会に出席します。特別賛美の奉仕を担当します。
3. 次回聖書研究会・祈祷会は、1月31日(水)午後6時15分から、行ないます。